

茨城空港アクセス道路と  
6号バイパスを利活用した  
まちづくり特別委員会  
会議録

令和8年3月11日(水)午後3時58分  
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

# 茨城空港アクセス道路と6号バイパスを利活用した まちづくり特別委員会

令和8年3月11日(水) 午後3時58分

3階 議会委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 当委員会に審査終了について

(2)その他

4 閉 会

出席委員（9名）

|     |              |     |            |
|-----|--------------|-----|------------|
| 1番  | 鬼田岳哉君        | 8番  | 長津智之君      |
| 9番  | 島田清一郎君（副委員長） | 10番 | 鈴木俊一君（委員長） |
| 11番 | 村田春樹君        | 12番 | 石井旭君（議長）   |
| 16番 | 福島ヤヨヒ君       | 17番 | 大槻良明君      |
| 19番 | 市村文男君        |     |            |

欠席委員（2名） 15番 岩本好夫君

20番 荒川一秀君



議会事務局職員出席者

書記 寺家祐子

午後 3時58分 開会

**○副委員長（島田清一郎君）** ただいまから、茨城空港アクセス道路と6号バイパスを活用したまちづくり特別委員会を開催いたします。

委員長挨拶、鈴木委員長お願いいたします。

**○委員長（鈴木俊一君）** 本日は、予算特別委員会終了後のお疲れのなか、委員の皆様にご参集いただきまして有難うございます。

前回、当委員会においては、先進地視察研修の報告を交え、今後の当委員会のあり方について協議してきたところです。

現在の6号バイパスにつきましては、国との調整状況等がなお流動的であり、現時点において具体的な整備計画を示す段階には至っていないことから、当初想定していた周辺整備の具体化には、引き続き時間を要する状況であり一度休止してはどうかとのご意見がありました。本日は、委員のみなさまの最終的なご意見を賜りたいと思います。

**○副委員長（島田清一郎君）** ありがとうございます。

それでは議事に入ります。

議事の進行は鈴木委員長をお願いいたします。

**○委員長（鈴木俊一君）** それでは、ただいまの出席委員は8名でございます。

定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

関係資料はお手元に配付しておりますが、スマートスマートディスカッションにも保存されております。

では、ただいまから議事に入ります。

当委員会の調査終了についてを議題といたします。

お手元に配布しております資料のとおり、当委員会の報告書（案）を作成しております。本報告書は、本委員会における調査の経過及び調査結果を取りまとめたものであります。

本委員会ですが、本日を含め計5回開催いたしました。

第1回委員会では、「小美玉市新まちづくり構想」を基本に、茨城空港アクセス道路及び国道6号バイパス周辺の整備について、執行部から説明を受け、質疑応答を通じて計画の妥当性について検証を行いました。

第2回委員会では、県の資料を基に、常総市及び坂東市における工業団地整備等について情報共有を行いました。

また、令和6年8月には、県の所管部署から講師を招き、茨城空港テクノパークの取組や企業誘致の状況、地域未来投資促進法等について研修を実施いたしました。

さらに、委員会の進め方を協議したうえで、令和7年7月に先進地視察研修を実施し、本市のまちづくりに資する多くの知見を得ることができました。

これらの調査・研究を踏まえ、報告書として成果を取りまとめております。

調査結果の要点であります。

第一に、官民連携と地域資源の最大活用の重要性であります。

先進事例から、自治体、民間企業、地域住民が連携することで、地域全体が一体的に発展していることを確認しました。

第二に、交通インフラを核とした土地利用と企業立地であります。

茨城空港アクセス道路及び国道6号バイパスは、人流・物流の結節点として高いポテンシャルを有しており、計画的な土地利用と制度活用により、企業立地の促進が期待されます。

第三に、地域住民との合意形成の重要性であります。

事業構想段階から丁寧な説明と対話を重ねることが、円滑な事業推進につながります。

第四に、民間企業の積極的参画であります。

行政手続の効率化と民間主導の事業体制構築により、迅速な事業展開と地域経済への波及効果が期待されます。

以上のことから、茨城空港アクセス道路及び国道6号バイパスは、単なる交通インフラにとどまらず、産業振興や雇用創出を支える地域成長の基軸インフラであることが確認されました。

本委員会としては、両道路の利活用を面的な地域戦略として位置づけ、中長期的視点に立った総合的な都市・産業政策として推進することを強く提言し、報告といたします。

ただいまの報告書（案）につきまして、委員の皆様からご意見はございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

**○委員長（鈴木俊一君）** 岩本委員からも同じような言葉をいただいております。

ご意見がないようですので、本報告書（案）をもって当委員会の調査報告とし、議長に提出することといたします。

次に、当委員会は調査終了につき、これをもって終了することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

○委員長（鈴木俊一君） ご異議なしと認めます。それでは、本会議において当委員会廃止の報告をいたします。

次に、その他に入ります。その他で何かございますか。

市村委員。

○19 番（市村文男君） 今、国では6号バイパスの環境問題の調査が終わったところです。それから、6号バイパスのコースを今から決めて、都市計画決定から全部行っていくわけですが、本来であれば、今からこの委員会を作っていくところだと思っており、この特別委員会は時期が早かったのではないかと感じているところでございます。今からがこの委員会の大事なところですが、そういう先が見通せない形の中で素晴らしい結論が出ましたので良かったと思っています。それと、前に私言ったことがあるんですが、おそらくアクセス道路とバイパスの結節点に、将来はそこへ市庁舎本庁舎が移転するんだろうという考えを言ったことがあります。これから先、自治体もこれから先動き出すんだろうと思いますが、本来であればこれからが大事だと考えております。その他の意見でございます。

○委員長（鈴木俊一君） その他なにかございますか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

○委員長（鈴木俊一君） ないようですので、本日の協議を終了いたします。

副委員長と交代いたします。

○副委員長（島田清一郎君） それでは、以上で茨城空港アクセス道路と6号バイパスを活用したまちづくり特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後 4時06分 閉会